2024.07.27 Sat

地域緩和ケア連携調整員フォーラム	資料
令和6年7月27日	2-3

荒尾市における
地域緩和ケア連携調整員の活動

西原クリニック/荒尾市医師会　中村　光成
荒尾市立有明医療センター　濱口　裕光
荒尾市立有明医療センター　宮野　由美

荒尾市の紹介

ユネスコ世界文化遺産
『万田坑』

ラムサール条約登録湿地
『荒尾干潟』

ジャンボ梨の名称で親しまれている
『荒尾梨』

アトラクション数日本一の遊園地
『グリーンランド』

荒尾市の特徴

程よく揃った医療・介護のリソース

① 市役所
② 地域包括支援センター
③ 有明医療センター
④ 認知症疾患センター
⑤ 医師会
⑥ 歯科医師会
⑦ 薬剤師会
⑧ 社会福祉協議会

高齢化と医療・介護が支えるまち

人口：49,617人

高齢化率：36.59%

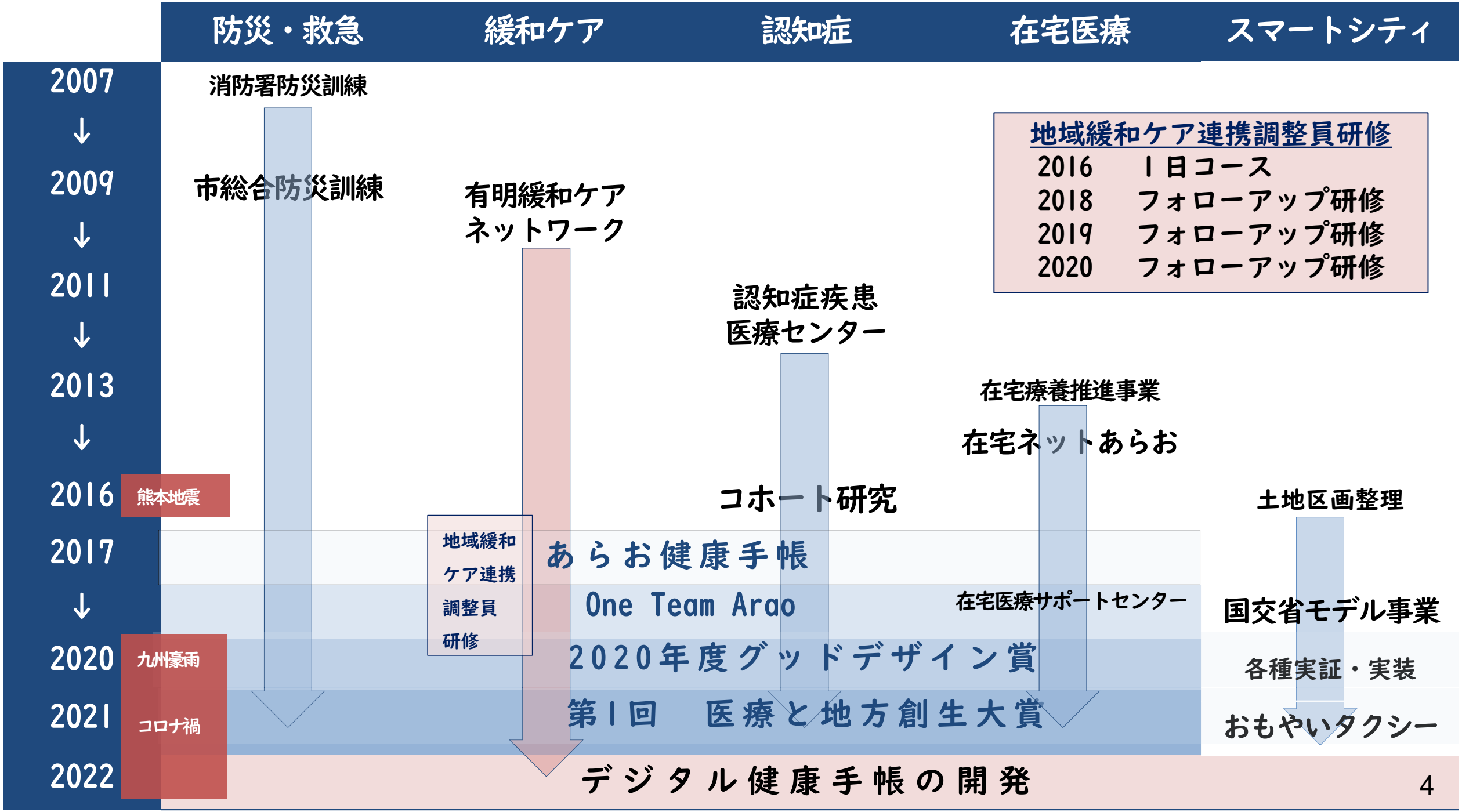
※住民基本台帳人口（2024年1月末時点）

市域面積：57.37㎢

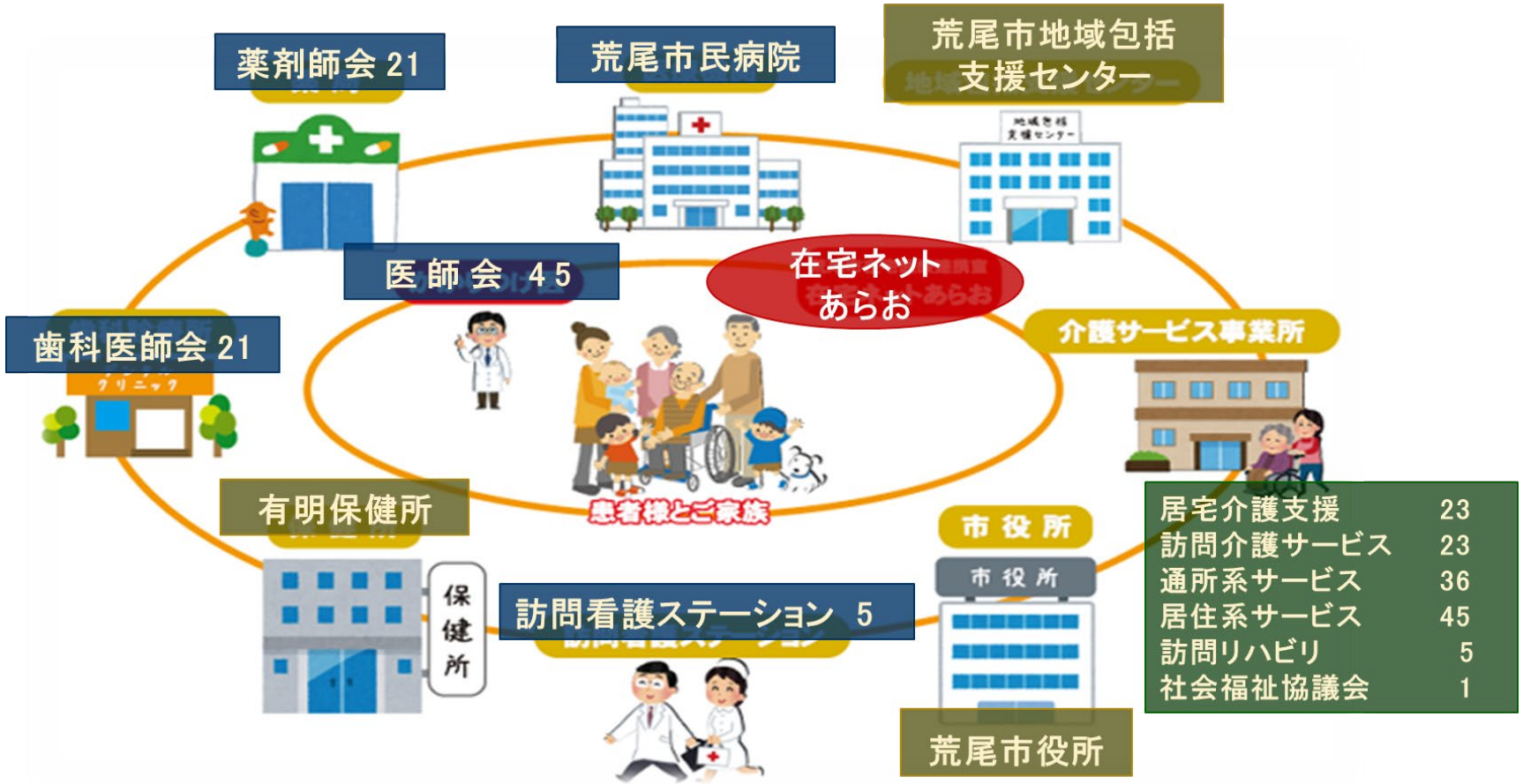
産業構造：

第一次産業	4.26%
第二次産業	27.31%
第三次産業	67.35%

（保健衛生・社会事業　16.4%）


防災・救急
緩和ケア
認知症
在宅医療
スマートシティ
2007
2009
2011
2013
2016
2017
2020
2021
2022
熊本地震
九州豪雨
コロナ禍
消防署防災訓練
市総合防災訓練
有明緩和ケア
ネットワーク
認知症疾患
医療センター
在宅療養推進事業
在宅ネットあらお
コホート研究
土地区画整理
地域緩和
ケア連携
調整員
研修
あらお健康手帳
One Team Arao
在宅医療サポートセンター
国交省モデル事業
2020年度グッドデザイン賞
各種実証・実装
第1回　医療と地方創生大賞
おもやいタクシー
デジタル健康手帳の開発
地域緩和ケア連携調整員研修
2016　1日コース
2018　フォローアップ研修
2019　フォローアップ研修
2020　フォローアップ研修

荒尾市在宅医療連携室　在宅ネットあらお



200施設以上が参加する多職種協働体制

1st Step

顔の見える関係づくり

2009～
有明緩和ケアネットワーク
荒尾市民病院

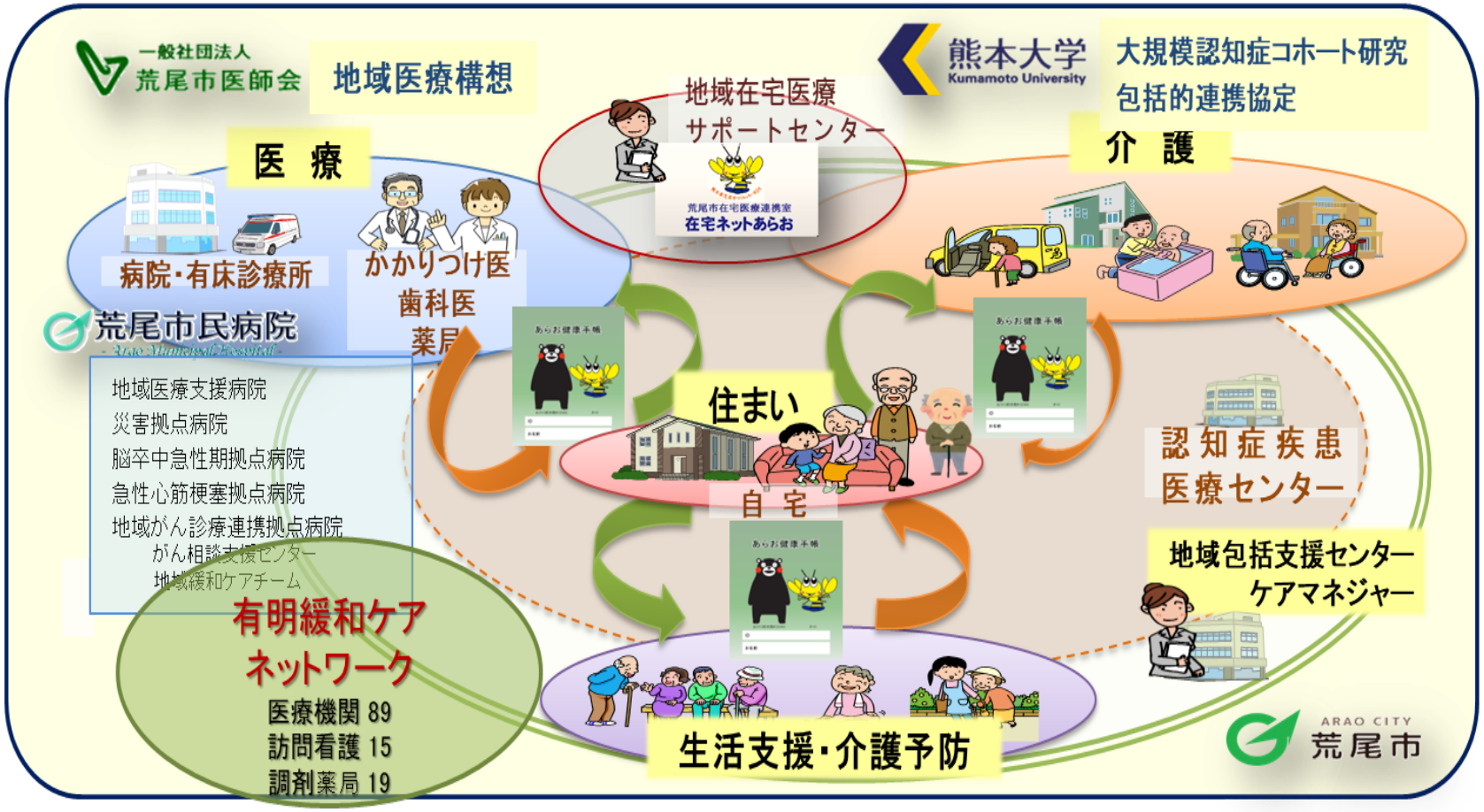
2011～
認知症疾患医療センター
荒尾こころの郷病院

2013～
在宅ネットあらお
荒尾市医師会

- 事例検討会
- 研修会
- 市民公開講座

あらお健康手帳

5疾患（がん、認知症、心不全、脳卒中、糖尿病）の連携手帳を統合



包括的地域連携手帳開発委員会

荒尾市医師会、荒尾市民病院、荒尾市役所、熊本大学

［ 中村Dr　濱口Dr・松山Ns　…… 地域緩和ケア連携調整員 ］

2nd Step

体制づくり

2016～2020
地域緩和ケア連携調整員研修

2016～
あらお健康手帳
- 2017　開発
- 2019　運用
- 2020　グッドデザイン賞

2020
在宅ネットあらお＋
在宅医療サポートセンター

⇓

One Team Arao による連携体制

One Team Arao の表彰

2020

GOOD DESIGN AWARD 2020

あらお健康手帳

審査員公開コメント

おくすり手帳や介護情報、医療情報など、健康に関する管理書類は、なぜか今までそれぞれバラバラに存在していた。それをとても簡単な方法で一冊にまとめ普及させようという取り組み。まずはリリースし拡げた行動力に地域包括ケアの未来を感じ、大いに評価した。全国でも同じ様な取り組みが進むことを期待したい。

2021

第1回 医療と地方創生大賞

表彰状

One Team Arao ディレクター
荒尾市医師会 理事

中村 光成 殿

貴地域における先進的な医療のお取り組みに敬意を表します
また貴地域の地域経済循環構造の改善がみられることを本日開催した軽井沢
[illegible]確認いたしました
両者の関連を深めることは地域の医療
管理の向上につながり 他の範となる
ところであり 第1回 医療と地方創生
大賞の受賞者としてここに表彰します

2021年7月13日

ヘルスケアフォーラム事務局
代表 伊藤 弘人

One Team Arao

荒尾市医師会 会長 鴻江和洋

荒尾市民病院 事業管理者 大嶋壽海

荒尾市長 浅田敏彦

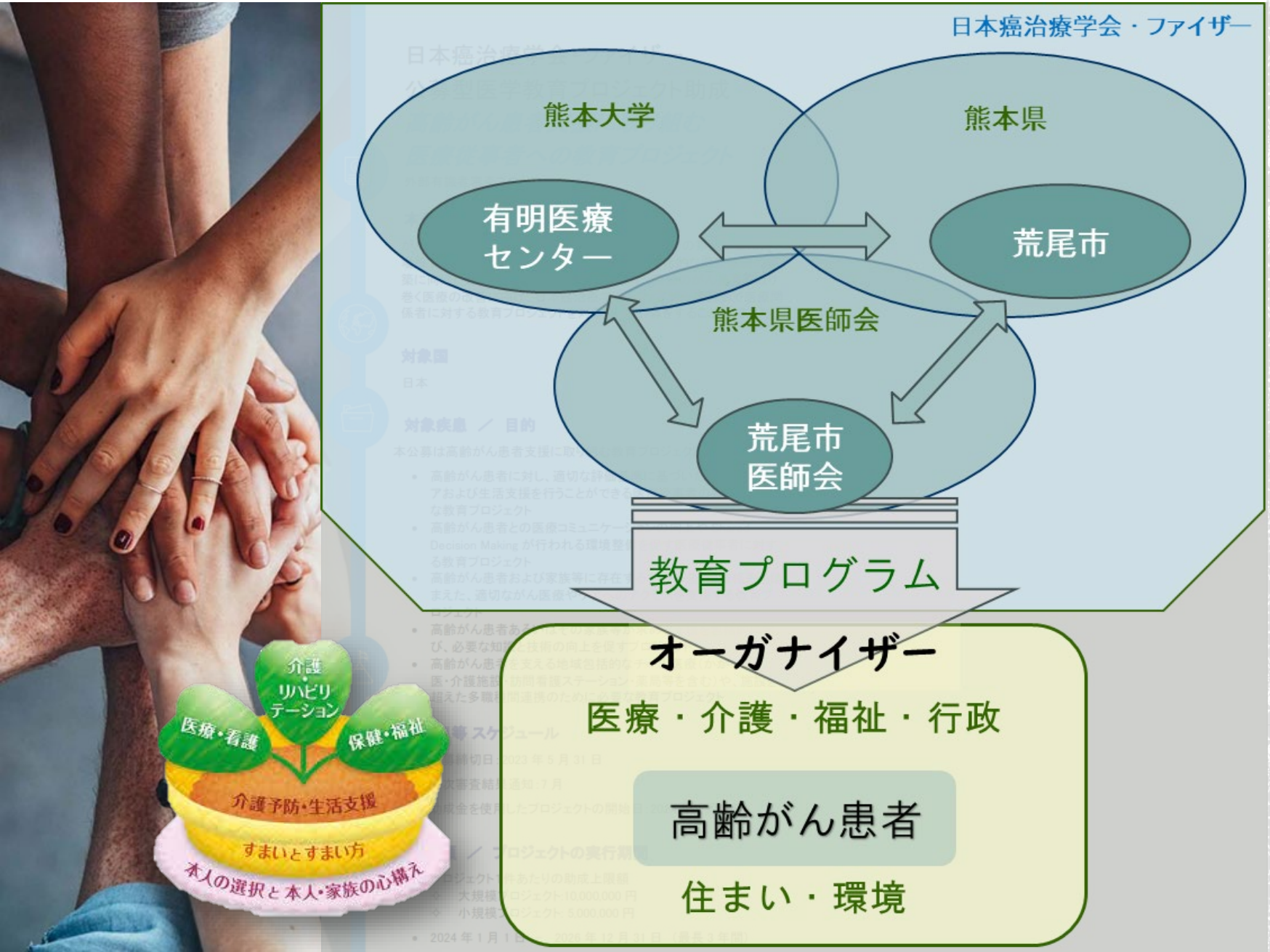
第10回 ヘルスケアフォーラム

自立した地域医療提供体制の構築

⇓

地域経済循環構造の改善

地方都市における高齢がん患者を支える多職種協働体制教育プログラム



3rd Step
地域づくり

2019～2023
新型コロナウイルス禍

2021～
デジタル健康手帳
2021　開発
2024　Web版の運用開始

2024～
地方都市における高齢がん患者を支える多職種協働体制教育プログラム
オーガナイザー：
荒尾版地域緩和ケア連携調整員

デジタル健康手帳

医療健康情報管理

市民

住民が自ら診察情報などの健康情報を管理できます

- **医療連携情報**
  －医療機関の診断情報を記録（既往歴管理）
- **おくすり情報**
  －処方または購入した薬を記録
- **日常の健康記録**
  －血圧、体重、体温等の健康データ

診察時に患者が管理する既往歴などの医療/健康情報を閲覧し、診断をサポートします

医師が電子健康手帳に診断内容を記入することができます

医師

特長　**家族間の健康データ管理**

家族のデータも１つの電子健康手帳でまとめて管理可能

NEC

利用者(患者)
情報を自己管理

許可 ⇄ 還元

医療機関
情報の閲覧・提供

10

地方都市における
高齢がん患者を支える
多職種協働体制教育プログラム

実行委員会：　荒尾市医師会　中村光成　… 地域緩和ケア連携調整員

荒尾市立有明医療センター　濵口裕光　… 地域緩和ケア連携調整員

荒尾市・保険介護課　岩下和隆

事務局：　在宅ネットあらお　→　臨床研究室（仮）

日本癌治療学会・ファイザー
公募型医学教育プロジェクト助成

高齢がん患者支援に取り組む
医療従事者への教育プロジェクト

外部有識者審査プロセス

本公募の概略

がん対策推進基本計画では、高齢のがん患者やその家族が望んだ場所で適切な医療や療養支援を受けられる、包括的な医療体制の構築に向けた是正・改善が課題となっています。高齢のがん患者を取り巻く医療の改善に向け、日本癌治療学会とファイザーは協働で医療関係者に対する教育プロジェクトを対象とした公募をすることとしました。

対象国

日本

対象疾患 ／ 目的

本公募は高齢がん患者支援に取り組む教育プロジェクトを対象とする。

- 高齢がん患者に対し、適切な評価基準に基づいたがん医療・ケアおよび生活支援を行うことができる医療従事者の育成に必要な教育プロジェクト
- 高齢がん患者との医療コミュニケーションの向上や Shared Decision Making が行われる環境整備を促す医療従事者に対する教育プロジェクト
- 高齢がん患者および家族等に存在する社会格差・情報格差を踏まえた、適切ながん医療やケアへのアクセスを支援する教育プロジェクト
- 高齢がん患者あるいはその家族等が求める支援を包括的に学び、必要な知識と技術の向上を促すプロジェクト
- 高齢がん患者を支える地域包括的なチーム医療（かかりつけ医・介護施設・訪問看護ステーション・薬局等を含む）や、施設を超えた多職種間連携のために必要な教育プロジェクト

締切日等 スケジュール

- 公募締切日：2023 年 5 月 31 日
- 一次審査結果通知：7 月
- 助成金を使用したプロジェクトの開始日：2024 年 1 月 1 日

助成額 ／ プロジェクトの実行期間

- プロジェクト1件あたりの助成上限額
  - ✧ 大規模プロジェクト:10,000,000 円
  - ✧ 小規模プロジェクト: 5,000,000 円
- 2024 年 1 月 1 日 － 2026 年 12 月 31 日 （最長 3 年間）

日本癌治療学会・ファイザー
公募型医学教育プロジェクト助成

- 高齢がん患者に対し、適切な評価基準に基づいたがん医療・ケアおよび生活支援を行うことができる医療従事者の育成に必要な教育プロジェクト
- 高齢がん患者との医療コミュニケーションの向上や Shared Decision Making が行われる環境整備を促す医療従事者に対する教育プロジェクト
- 高齢がん患者および家族等に存在する社会格差・情報格差を踏まえた、適切ながん医療やケアへのアクセスを支援する教育プロジェクト
- 高齢がん患者あるいはその家族等が求める支援を包括的に学び、必要な知識と技術の向上を促すプロジェクト
- 高齢がん患者を支える地域包括的なチーム医療（かかりつけ医・介護施設・訪問看護ステーション・薬局等を含む）や、施設を超えた多職種間連携のために必要な教育プロジェクト

申請団体要件

- 大学、大学病院、地域中核病院、その他医療系の教育機関
- 医療系の学会・研究会等
- 医療系の財団法人・NPO 法人等
- 医師会・薬剤師会・歯科医師会

対象者（Audience）

医師	10	/ 150名
歯科医師	2	/ 30名
薬剤師	3	/ 45名
看護師	15	/ 500名
訪問看護師	5	/ 25名
介護支援専門員	8	/ 80名
介護福祉士	5	/ 50名

その他の専門職
（栄養士、理学療法士など）　若干名

地域ボランティア　若干名

- オーガナイザーは、年間5~10名の育成を目標とする。
- 受講者は、職種を問わず、地域医療連携への貢献を志す専門職を中心に募集する。
- 聴講生は、可能な限り受け入れる方針であり、ボランティア活動などに従事している一般市民の聴講を妨げるものではない。

オーガナイザー
- 研修修了者には認定証を交付
- インセンティブの付与
- 所属機関、連携機関への周知・協力

基礎研修会の内容

	テーマ	講義	グループワーク
第1回	プログラムの概要 高齢者がん患者の特性・理解	プログラムの目的と全体像 がんの基本的な理解 高齢者がん患者の一般的な特性と課題	
第2回	高齢者機能評価（GA/CGA）の理解・活用、療養環境の評価	GA/CGAの方法と活用 高齢者における療養環境の評価	GA/CGAの結果を用いた治療・療養計画の立案 を行う
第3回	高齢がん患者の精神的支援、コミュニケーションスキルの向上	高齢者および家族に対する効果的なコミュニケーションの方法	ロールプレイを通じたコミュニケーションスキルの習得
第4回	高齢者がん患者の生活療養支援、多職種協働体制	高齢者がん患者の療養を支える生活支援、地域連携体制	具体的な患者ケースを用いた多職種連携による問題解決のシミュレーション学習
第5回	高齢者がん患者の家族・介護者の意思決定支援（ACP）	高齢者がん患者の家族や介護者の支援の特性と課題 意思決定支援の概要（ACP）	具体的な患者ケースを用いた意思決定支援に向けたシミュレーション学習
第6回	高齢者療養支援に向けた荒尾地域の取り組み、プログラムの振り返り	荒尾の地域連携、療養支援体制の概要、社会資源の活用について 振り返りとフィードバックの共有	現状の課題を抽出し、今後の改善点や新たな取り組みの案出を行う

年間6回の研修を受けることで、受講者は以下の目標を達成する。

1. 高齢者がん患者の支援に必要な知識とスキルを身につけ、多職種チームでの連携を深める。
2. グループワークを通じて、実際の現場での問題解決の経験を積む。
3. 高齢者がん患者が必要とする適切な支援を提供する。

自主学習講座の内容

テーマ	学習内容	教材
1　高齢がん患者とフレイル	がんの基本的な知識と、高齢者ががんになった場合の特徴や問題点	がんナビ「:老年医学とがん診療」
2　高齢者機能評価（GA/CGA）と多職種連携	高齢者機能評価の概要と多職種連携の重要性とその効果	荒尾市立有明医療センター
3　緩和ケアとエンドオブライフケア	緩和ケアの基本的な知識と、エンドオブライフケアの重要性	PEACE「緩和ケア概論」「全人的苦痛と包括的アセスメント」
4　がんの痛みと評価	がん性疼痛の評価と具体的な対処方法や事例	PEACE「がん疼痛評価と治療」
5　がん患者のリハビリテーション	がん患者のリハビリテーションの重要性とその方法	がんナビ「がんとリハビリテーション」
6　栄養管理・サルコペニア対策	高齢者がん患者の栄養管理の重要性とその方法	がんナビ「がんと栄養学」
7　コミュニケーションスキル	患者や家族、他の医療スタッフとの効果的なコミュニケーション	PEACE:「コミュニケーションスキル」
8　意思決定支援、精神的ケア	高齢者がん患者やその＊が抱える精神的な課題と評価、それに対する支援	PEACE:「ACP,看取りのケア、家族・遺族ケア」
9　療養場所の選択と地域連携	患者・家族の意向に沿った療養場所の選択、地域のリソースの把握、連携方法や地域社会との連携の重要性	PEACE「療養場所の選択と地域連携」
10　高齢がん患者の倫理的・社会的問題	高齢者がん患者の治療における意思決定支援と倫理的な問題、それに対する対処方法	PEACE「社会的苦痛の緩和ケア」 がんナビ「終末期をめぐる倫理的諸問題」

＊ e-learning形式 10項目

地域緩和ケア連携調整員としての活動

第1段階：顔の見える関係づくり　2009～2016

- 有明緩和ケアネットワーク、認知症疾患医療センター、在宅ネットあらお
- ①事例検討会　②各種研修会　③市民公開講座
- 200以上の医療・介護・福祉関連施設が参加する多職種協働体制

第2段階：体制づくり　2017～2021

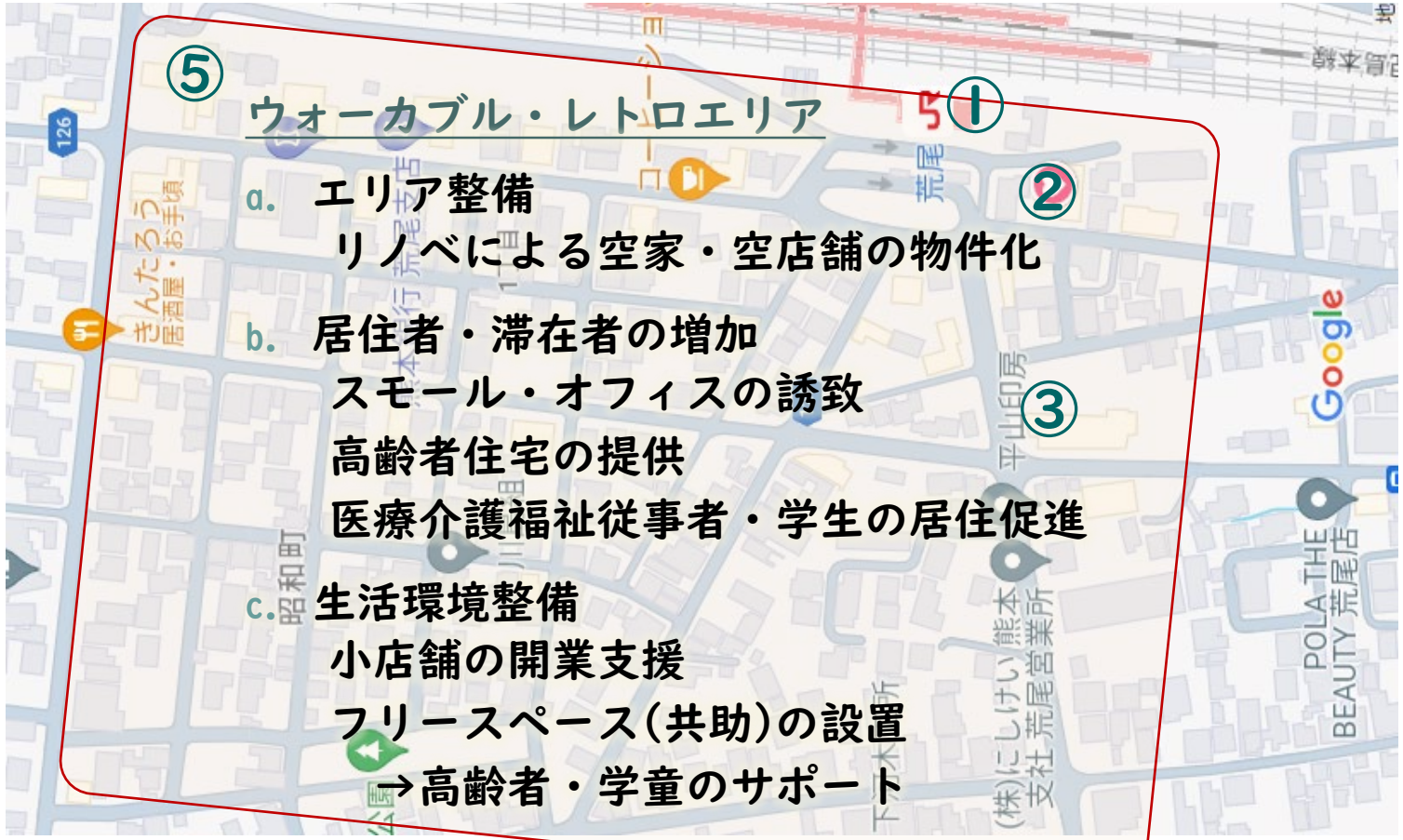
- 地域緩和ケア連携調整員研修（医師2，看護師4/4年間）
- ④医療と介護の連携を深める研修会　⑤在宅医療サポートセンター
  ⑥「あらお健康手帳」の開発・運用
- One Team Arao（医師会・拠点病院・行政）による連携体制 … 地域緩和ケア連携調整員

第3段階：地域づくり　2022～

- ⑦「デジタル健康手帳」の開発・運用
  ⑧地方都市における高齢がん患者を支える多職種協働体制教育プログラム
  One Team Arao によるオーガナイザー(地域医療連携調整員)の育成
- さらなる地域づくりへ

Wellness City Project

～荒尾市医師会からの提案～



⑤ ウォーカブル・レトロエリア

a. エリア整備
　リノベによる空家・空店舗の物件化

b. 居住者・滞在者の増加
　スモール・オフィスの誘致
　高齢者住宅の提供
　医療介護福祉従事者・学生の居住促進

c. 生活環境整備
　小店舗の開業支援
　フリースペース（共助）の設置
　　→高齢者・学童のサポート

⓪

d. 健康・生活データの集積・解析・還元
　デジタル健康手帳（あらお健康手帳）

さらなる 地域づくりへ

①荒尾駅舎利活用実証事業
②荒尾駅前活性化プロジェクト
　JR九州×のあそびlabo×荒尾市

③荒尾駅停車場線整備事業
④あらお海陽スマートタウン
　荒尾市・UR

⑤ウォーカブル・レトロエリア
　荒尾市・UR・銀行・荒尾市医師会・のあそびlabo
　［ローカル10000プロジェクト］

⓪臨床研究室（仮）
　荒尾市医師会
　有明医療センター
　荒尾市

臨床研究室の活用

臨床研究室

データ集積・解析・還元
デジタル健康手帳

地域医療構想

入院機能
外来機能
在宅医療
救急医療

日本医師会
熊本県医師会
熊本県

保健衛生研究

認知症コホート研究
フォーネスビジュアス

九州大学
熊本大学
NEC
エーザイ

まちづくり

DIYリノベーション
ウォーカブル
インクルージョン

のあそびlabo
九州DIY
　リノベWEEK
熊本大学

高齢化対策

高齢がん患者支援する
教育プログラム
認知症
フレイル

日本癌治療学会
/ファイザー